

事業報告

- ◆面展(7月14日~8月10日)
日本の文化を深く知ってもらおうと能面、狂言面、祭面など約60点を展示し、900人以上の方が観覧しました。
- ◆親子の国際講座(7月23日)
~みんな集まれ!世界のおそび~
世界のこどもたちはどんなおそびをしているの?イギリス、イラン、バングラデシュ、韓国で親しまれているおそびを体験し、他の国や地域についての理解を深めました。
- ◆花火鑑賞会(8月5日)
国際交流センターに日本人と外国人が集い、一緒に黄門まつりの花火を鑑賞しました。
- ◆青少年のための国際理解講座(8月21日)
~学生に伝えたい「私と仕事をつないだ国」~
海外での経験を活かし、水戸市内で仕事に従事している講師が、影響を受けた国の魅力やそこでの経験が現在の自分をどう形成しているのかについて講演しました。
- ◆つくってみよう!世界の料理(9月17日)
~ブラジル編~
肉料理からデザートまでの調理実習に加え、サッカーやサンパだけではない歴史や文化・人々の生活を学びました。
- ◆はじめのいっぽ(9月24日)
~楽しく学ぼう!スペイン語編~
あいさつや旅先で使える簡単な会話などを中心に、世界20カ国以上で使用されているスペイン語の基本を学びました。
- ◆国際交流(お月見)パーティー(10月8日)
日本人も外国人も一緒に書道や折り紙、茶道やけん玉などの日本文化を体験し、理解を深めることができました。



- ◆世界の歩き方講座(10月13日・20日)
~ドイツ・オーストリア編~
「文学」の切り口からドイツとオーストリアの新たな魅力について学びました。
- ◆ホビングリッシュ講座(10月19日)
~ノルウェー料理編~
英語で実習を楽しむこの講座では、ノルウェー料理のレフサ(ジャガイモクレープ)を調理し、人々の生活や文化についての講義も受けました。



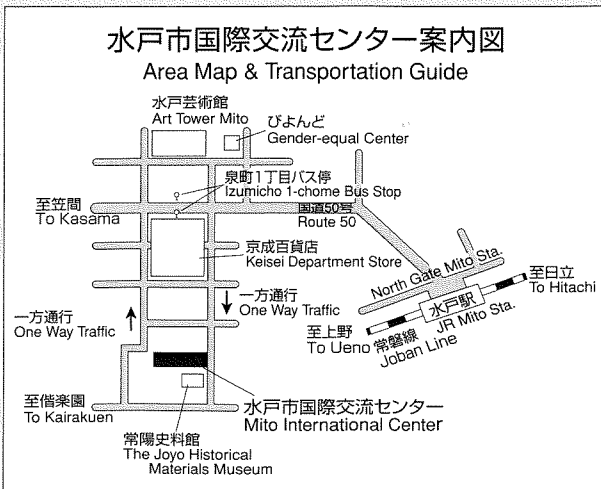
今後の行事予定

- ◆国際交流(新年)パーティー
日本語教室に通う外国人の方による自国紹介やビンゴ等を行います。料理を囲みながら楽しく交流しましょう。
1月21日(土)開催
- ◆ホビングリッシュ講座
毎回異なったテーマの趣味(ホビー)を通して英語(イングリッシュ)を学びます。【 】は各回のテーマ。
1月28日(土)【読書】、2月11日(土)【絞り染め】、3月3日(土)【旅行】
- ◆クラシック音楽で巡るヨーロッパの街vol.8
水戸芸術館の協力を得て、世界の歴史・文化、クラシック音楽について学びます。
2月16日・23日、3月1日・8日 いずれも(木)
- ◆国際交流のつどい
国際交流を身近に感じていただけるような講演会や各種講座などを開催します。
3月頃(予定)

【外国人対象】For Foreign Residents

- ◆外国人のための日本料理教室
~Japanese Cooking Class~
「お弁当教室」と題して、おにぎりや卵焼きを作ります。
12月17日(土)開催
 - ◆スキーツアー ~ Ski Tour ~
白銀の世界でスキーを楽しみます。 2月17日(金)
 - ◆市内ウォッチング ~ City Tour ~
水戸市の施設見学等を行います。 3月予定
- ◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

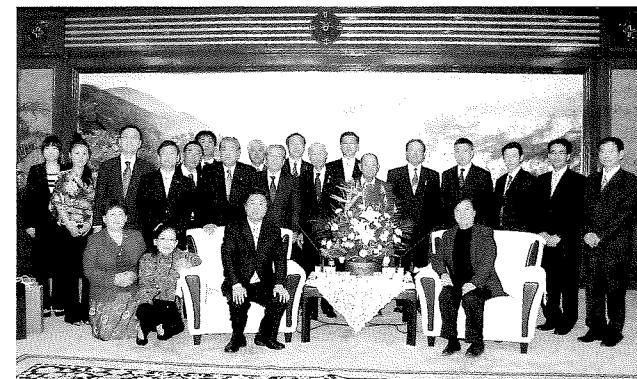
開館時間：午前9時から午後9時まで
休館日：月曜日、祝日
〒310-0024 水戸市備前町6-59
水戸市国際交流センター内
(公財)水戸市国際交流協会
Tel:029-221-1800 Fax:029-221-5793
http://www.mitoic.or.jp/
E-mail:mcia@mito.ne.jp



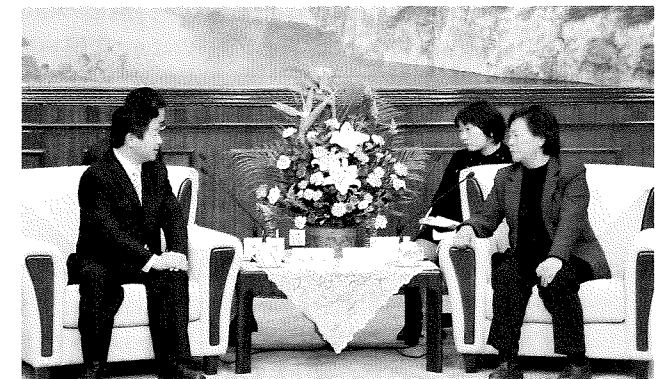
Mito City International Association

(公財)水戸市国際交流協会機関紙
第40号
2011.12.

第6回 友好交流都市重慶市親善訪問団を派遣



重慶市人民政府への表敬訪問



会談する高橋靖水戸市長と王副主任(右)

2011年10月28日から11月3日までの7日間、高橋靖水戸市長を団長、渡辺政明市議会議長を副団長とした総勢17名の親善訪問団が、水戸市の友好交流都市である中国 重慶市をはじめ、自然世界遺産の「九寨溝」や「黄龍」を訪問してきました。

重慶市人民政府への表敬訪問では、王洪華重慶市人民代表大会副主任から、東日本大震災で被害を受けた水戸市への激励と、依然厳しい状態が続くなかでの重慶訪問に対する感謝の意が述べられました。引き続き行われた歓迎レセプションでは、両市民が和やかな雰囲気の中で交流し、友好親善の継続と発展を確認しました。

重慶師範大学の訪問では、大勢の日本語学部学生の歓迎を受けました。学生と団員がペアを組み、自由な形で交流したグループ交流では、両市民が膝を交えて互いの友情を深め合いました。そのほか、経済開発新区や住宅管理局の視察を行い、発展・成長し続ける中国のパワーと勢いを実感しました。

こうした重慶市民との交流や施設の視察をとおして、水戸市と重慶市はまた一歩友好の絆を深めることができました。

【日程】

日次	月日(曜日)	地名	行程
1	10月28日(金)	成田発 重慶着	空路、中国へ 重慶市表敬訪問 歓迎レセプション <重慶泊>
2	10月29日(土)	重慶	重慶市内視察 重慶師範大学、 経済開発区など <重慶泊>
3	10月30日(日)	重慶 成都	成都空港へ移動 成都市内視察 <成都泊>
4	10月31日(月)	九寨溝 黄龍	九寨溝へ移動 黄龍視察 <九寨溝泊>
5	11月1日(火)	九寨溝	九寨溝視察 <九寨溝泊>
6	11月2日(水)	成都	成都へ移動 成都市内視察 <成都泊>
7	11月3日(木)	成都発 成田着	空路、成田へ 成田到着、水戸市役所へ

特集

震災を乗り越えて

7月1日、国際交流センターが本格始動!

東日本大震災では、施設利用者、スタッフともにけが人を出すことなく無事に避難することができたものの、国際交流センターは損壊を受け、休館せざるを得ない状況となりました。

たくさんの方々から「一日も早い再開を。」という声が寄せられるなか、施設内の安全性が確保されたとして、7月1日に当センターを再開することができました。

そして同日、公益財団法人に移行し、「公益財団法人水戸市国際交流協会」として新たな一歩を踏み出しました。

今後も引き続き、市民の皆様とともに、地域における国際化や多文化共生の実現に向けて、各種事業を積極的に展開してまいりますので、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

<新規事業の紹介>

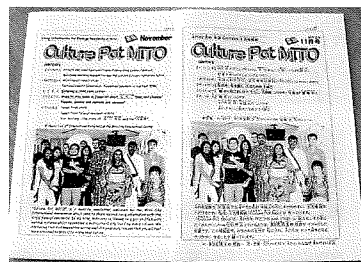
◆外国人のための生活情報紙「Culture Pot MITO」の発行

水戸市に住む外国人のための生活情報紙を英語版・日本語版で毎月発行しています。

「Culture Pot MITO」は、水戸市をひとつのpot(つぼ)に例え、その中にたくさんのculture(文化)が入っているような、多文化共生社会のイメージから名づけられました。

内容は、生活に必要な手続きや税金などについて解説した「生活情報」や、日本語がわからなくても楽しめそうな行事を紹介する「イベント情報」、水戸の歴史がわかる「プチ歴史コーナー」、日本で感じたことを掲載した「読者のつぶやき」などで構成されています。

「Culture Pot MITO」は、当センターのほか、市関連施設、外国料理店などに置いてあります。ぜひご覧ください。



◆どうサロン「トコトン韓国」と「ニーハオ中国」

「韓国」と「中国」をテーマにした交流サロンを開催しています。その国のことをもっと知りたい・言葉を勉強したい方や、韓国や中国出身の方がお茶を飲みながら気軽に交流できる場です。

「トコトン韓国」 開催日時：毎月第3土曜日 12:30~14:00

「ニーハオ中国」 開催日時：毎月第4土曜日 12:30~14:00

いずれも開催場所は国際交流センター2階・ロビーで、参加費は無料です。

※月によっては開催日が変更になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

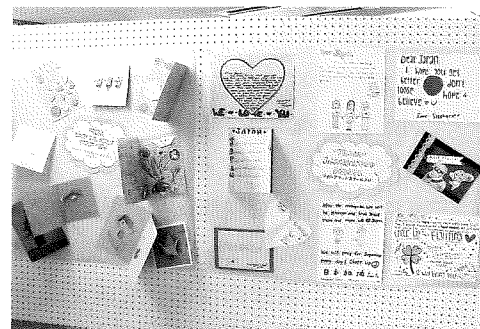


ガンバレ! MITO! ~アナハイムからの応援メッセージ展~

国際親善姉妹都市であるアナハイム市から、東日本大震災の被害を受けた水戸市民への応援メッセージが届きました。

これは、昨年アナハイム市から親善大使として水戸市を訪れた学生が中心となり、お世話になった水戸市のために自分たちができることは何かと考え、アナハイム市民に呼びかけ、水戸市民へ励ましの手紙を1,000通送るキャンペーンが実施されたことから始まりました。集まった手紙は、当初の予定をはるかに超える3,257通となり、水戸市の復興に役立ててほしいと集められた義援金(2,304ドル)と、アナハイム市オリジナルグッズとともに水戸市に届けられました。

国際交流センターでは、アナハイム市から届いたあたたかい気持ちを多くの方に感じてもらうと、7月1日から「ガンバレ! MITO! ~アナハイムからの応援メッセージ展~」を開催しました。会場内には、来場者の皆さんが気軽に返事を書くことができるように「お返事ポスト」を設置。水戸市内の小中学生や市民が「ありがとう」の気持ちをこめて書いた返事は、当協会からアナハイム市へ届けられます。



心のコもったメッセージの数々

日本発見記 ~東日本大震災編~

当協会のホームページには、国際交流センターを利用している外国人の方に、日本や水戸の印象、生活する中で感じたことなどを伺う「日本発見記」というコーナーがあり、外国人の視点から、日本や日本人はどのように見えているのかを知ることができます。ここでは、「東日本大震災編」としてインタビューした内容の一部を紹介いたします。(全文は、ホームページ「日本発見記」でご覧いただけます。)



エチオピアは山国で、占領されたことのない独立国です。そのため、プライドがあります。山国根性です。日本も島国で、山国根性と似かよった島国根性がありますよね。この地震での被害は多大で、復興には長い期間がかかると思いますが、島国根性のある日本人ならその我慢と根性で、絶対に乗り越えていけると思います。私は山国根性のある国の出身者として、この島国根性のある日本の力を信じています。

タスファイエ ガライヤさん(エチオピア出身)



今回の地震について、テレビで避難所の様子がたくさん報道されましたが、あんなに辛い状況の中でも大きな声で泣き叫ぶことなく、悲しくても静かに耐える日本人の姿を見て驚きました。物資が支給される時には、必ず並んで「ありがとうございます。」とお礼を言いますし、おにぎりなど一つしかもらえなくても、文句を言わないマナーの良さにも驚きました。

陳素恵さん(台湾出身)



震災後、断水が思ったより長引き、買い置きしていた水もなくなった頃に、近所のお宅から井戸水を頂くことができて助かりました。初めは遠慮して、やかんに入れてもらっていましたが、そのうちにたくさん頂くことができて、久しぶりにお風呂に入れたときは嬉しかったですね。ベトナムだったら、他人に水をただであげたりしないと思います。むしろ商売にするかもしれません。(笑)日本人は親切ですね。

ホーキムゴック カムトウさん(ベトナム出身)

3.11から学ぶ ~やさしい日本語を意識しよう~

東日本大震災では、「情報の大切さ」と「伝えること」の重要性を痛感しました。

日本という異文化の中で暮らす外国人にとっては、緊急時の日本語は聞きなれない言葉も多く、とても困難なことだったと思います。今回、子ども向け日本語ボランティア団体「せきれいの会」代表の茂木好美さんに、外国人が理解しやすい「やさしい日本語」について伺いました。

これは、普段の生活におけるゴミの出し方や、回覧板の回し方などを外国人に教える際にも有益なものです。日頃から「やさしい日本語」を意識して外国人の皆さんとコミュニケーションを築くことで、万が一の時にも皆が情報を共有しあえる社会になるのではないのでしょうか。

せきれいの会代表 茂木 好美

世界中の言語の中で、アラビア語・中国語・朝鮮語と並んで日本語は最も難しい言語と言われています。来日している外国人はその環境の中で生活するために、大変な努力を強いられています。ちょっとした助詞の違いや発音の違いでアクシデントが起こってしまったり、思わぬ事に発展したり、様々なことに遭遇しています。

例えば、「教室に『入る』」・「教室を『出る』」ということは誰でも理解できます。では、「授業に『出る』」というのは、どのように考えるでしょうか。日本人にはなんでもない言葉ですし、「出席」という漢字も分かっていますから、「授業に出る=授業を受ける」ことだとすぐ分かりますね。しかし、外国人にとっては「出る=Out」と考え、授業を受けないことだと理解しかねません。

私たちが何気なく使っている当然の言葉が、外国人にとっては困難をきたす訳です。日本語を客観的に捉えてみると、難しい言葉がたくさん使われています。漢字500字程度を知っていれば、新聞の80%は読めると言われていますが、外国人には表現が難しく意味を理解することができません。その上、日本語の特性としてあいまいな表現や主語を省略することも外国人にとって難しく分りにくいものにしてしまいます。

このような視点から、このたびのような災害が発生した場合、誰にでもよくわかる日本語、つまり「やさしい日本語」がとても大切であると思います。私たちが使っている日本語を外国人の立場に立ってもう一度見直し、やさしい日本語で伝えてみませんか。